

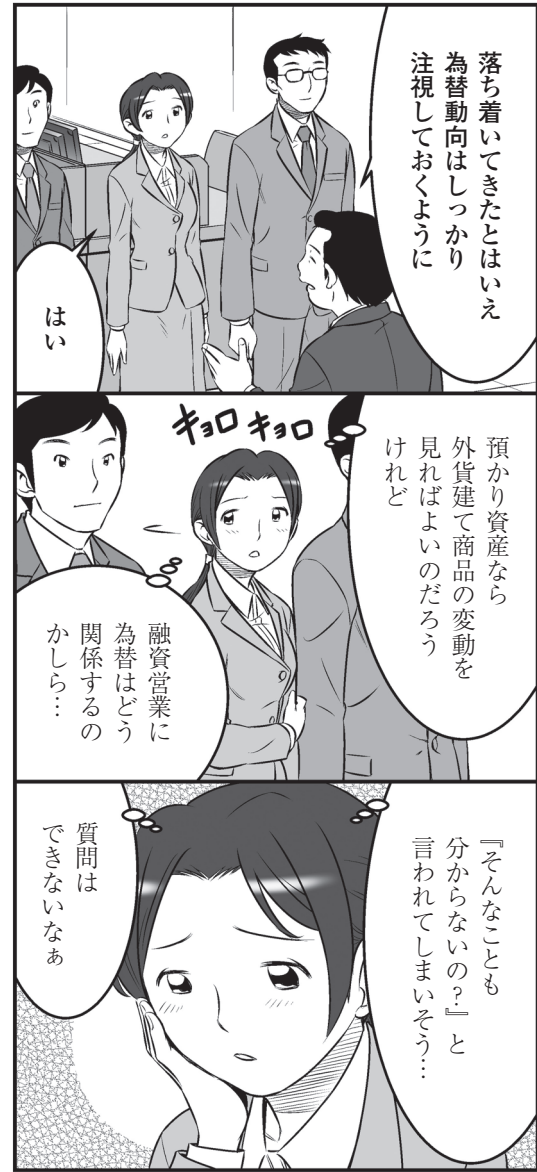
いきなり渉外担当者となったが
自分にできるのか不安：



金 融機関は、男性が融資審査や渉外業務、女性が預金業務を中心とした事務やテラー業務という性別による職務分離の傾向がある。そうした組織慣習の中で、突然予想もしていなかった渉外担当へ配属されれば、驚きとともに不安を感じるのは当然である。たとえ上司等から配属の理由や期待を説明されても、希望した業務ではなく心の準備もなかった場合には、組織のいじめではないかと悩む人もいるほどだ。
入社当初を思い出す
そんなときは冷静に入社した頃

Point
これまでの業務経験を活かし、積極的に知識を習得していくことで不安を解消する

自分と同じ立場の女性がおらず
分からないことを質問できない



やすさを考慮した体制整備のための取組みが動き始めている。総じて金融業界では女性が活躍できる業務も限定されている傾向にありますが、性別に捉わられることなく、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向け、組織も試行錯誤している。
組織が今までの慣習に捉われず、女性の活躍の場を広げる施策として任命する女性渉外担当者は、先駆者として後進の途を開くことができる人材として期待されている。性別に関係なく、「常識があり物事の判断ができる」と考えられる人材」と判断して任命しているはずだ。その期待にこたえるよう、業務で分からないことは組織のルールに従って、渉外業務の役席や先輩、仲間と相談しながら業務を進めるべきである。

預 金業務やテラー業務では女性のベテランが多く、女性先輩から業務を学び見習って成長してきた経験が多いだろう。渉外担当を経験している女性が周りにいないという現状を、心細く感じる気持ちも理解はできる。しかし、困ったときに女性に相談したり分からないことを教えてもらったりしてきたのは、たまたま女性の先輩が担当業務の知識を有していたというだけのこと。業務についての確にアドバイスをしてもらえるのであれば、性別にこだわる必要はなかったはずである。
性別にこだわらず相談を
現在、金融機関においても、行政主導で女性の活躍を推進する「ポジティブアクション」が拡大している。また、男女平等の実現に向けて、女性活躍推進法により、男女格差の縮小や女性の働き

Point
業務について適切なアドバイスをもたらさなければ、性別にこだわらずに相談する